

平成27年度アイランドキャンパス事業

離島の小学生と東京の大学生との交流を通じた島暮らしの魅力創出

芝浦工業大学建築工学科地域計画研究室

准教授 佐藤宏亮

1. 事業の経緯

芝浦工業大学建築工学科地域計画研究室では、過疎化が進む徳之島伊仙町において、地元NPO組織と協力し、空き家を再生したゲストハウスの活用促進を進めている。このプロジェクトでは、本学の学生が来島し、フィールドワークや地域住民との意見交換を重ねながら、島暮らしの魅力の掘り起こしや来島者へのプログラムの提案などを行っている。

地域住民との交流を深める中で、島には大学がないため、地域の小中学生が大学で学ぶことを身近に感じるができないため、大学生との交流を深める中で、自らの進路や将来について考えるきっかけづくりができないかという依頼を受けた。そこで、地元小中学校と協力しながら、島と都会の暮らしの比較をテーマとしたプログラムを開催することとなった。

2. 事業の目的

離島に暮らしながらも東京の大学生と交流する機会を創ることで、子供達が未来を描く一助とするとともに、小学生と大学生の双方が暮らしの環境について視野を広げる機会とすることを目的とした。本事業は中学校での授業の実施と地元の小学生を対象としたワークショップの開催の2つを柱とした。

中学校においては、総合学習の1コマを受け持ち、我々の専門領域である建築を入り口として、大学で学ぶことに対する興味を持ってもらうことを目標とした授業を開講した。

小学生を対象としたワークショップでは、建築を設計する楽しさを知ってもらうため、模型やシミュレーション機材を用いて実際に体験してもらうワークショップを開催した。また、現在取組みをすすめている空き家の活用と連携し、徳之島に固有の樹木の配置や地域の知恵を学びながら、庭づくりを実際に体験してもらうなかで、地域への愛着を醸成することを目標とした。

3. 事業の実施場所

鹿児島県伊仙町

4. 事業期間

平成27年10月29日(木)～11月6日(金)

5. プログラム行程

- 10月29日(木) 東京～奄美 (Vanila Air 利用/名瀬泊)
10月30日(金) 奄美～徳之島 (船舶利用)
事前打合せ
10月31日(土) 協力者との事前打合せ
会場設営
11月 1日(日) ワークショップの準備
庭の事前清掃等
11月 2日(月) 面縄中学校における授業
11月 3日(火) 小学生を対象としたワークショップ
11月 4日(水) 清掃等
11月 5日(木) 徳之島～奄美 (船舶利用/名瀬泊)
11月 6日(金) 奄美～東京 (Vanila Air 利用)

6. 参加メンバー

芝浦工業大学工学部建築工学科地域計画研究室

准教授 佐藤宏亮

学部4年 植田真衣/小野幹史/高橋優/瀧隆太郎/南悠介

7. 面縄中学校における授業

日時 11月2日 第4限

対象 中学1年生 24名

内容

- ・東京の大学生の生活について
- ・地域計画研究室の活動について
- ・大学において建築学科を選んだ理由
- ・建築学科で学ぶこと
- ・大学に入るまでに苦労したこと、頑張ってきたこと、努力したこと



▲大学生の生活について説明



▲建築の構造を折り紙で体験



▲建築模型に触れる



▲3次元モデルを操作する中学生

8. 小学生を対象としたワークショップ

日時 11月3日 11時～15時

対象 検福集落周辺の小学生

内容

- ・あむとうの庭の機能について考える
- ・あむとうの庭を皆でデザインする
- ・自分がデザインした庭を模型で見てみる
- ・あむとうの庭に果物の苗木を一緒に植える



▲庭の機能や素材を検討する



▲植栽や遊具を模型に配置



▲デザインした庭を CCD カメラで体感



▲果物の苗木を植える

9. 資料



建築の設計の方法を
少しだけ体験してみよう!

11月3日(火)

11:00~15:00

プログラム

第1部：あむとうの庭について考えよう!

- グループに分かれ、あむとうの庭をデザインしよう!
- 模型を通して、自分たちが設計した庭を覗いてみよう!

第2部：果物の苗木を植えよう!

- 大学生と一緒に、あむとうの庭にフルーツを植えよう!

※お昼は私たちが用意します!

会場：あむとう

対象：検福周辺の小学生

持ち物：軍手、汚れてもいい服装

参加費：無料

※あむとうまでは各自でお集まり下さい。

主催：NPO いせん1・1

芝浦工業大学 地域計画研究室

協力：面嶋小学校

お問い合わせ先：担当(小野)

Tel：03(5859)8462

Mail：ak12023@shibaura-it.ac.jp



▲小学生を対象としたワークショップのちらし

体験プログラムの課題探る

芝浦工業大学の学生ら

簡易宿泊施設を拠点に

伊仙町

地元小学生とあむとの庭づくりに取り組んだ芝浦工業大学の学生ら。3日、伊仙町



【徳島新聞】伊仙町が空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

「あむと」は、伊仙町が国の過疎集落等対策事業として、同町に空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

同回は同研究室の佐藤宏亮准教授と学生、院生10人が来場した。

「あむと」は、伊仙町が国の過疎集落等対策事業として、同町に空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

「あむと」は、伊仙町が国の過疎集落等対策事業として、同町に空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

「あむと」は、伊仙町が国の過疎集落等対策事業として、同町に空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

地元住民らの協力で、3日は同町小学校の落花生や柿、島カボチャなどを使った郷土料理作りやジャガイモの植え付けなどの農業体験、島根、鯉川町の平面図や模型を使って、植栽や遊具の設置を検討する。

「あむと」は、伊仙町が国の過疎集落等対策事業として、同町に空き家を改修して簡易宿泊施設として活用する取り組みを、9日間の日程で、同施設を拠点に授業や学と連携して運営を推進する。今年11月にオープンさせた施設の運営を担うNPO法人いせん・イー（堀江淳一理事長）の呼び掛けて、同大学の地域計画研究家が今年4月、施設の活用策を採るプロジェクトを開始した。同9月に報告会を開いて地元住民らに協賛を働きかけ、体験して移住につなげるプログラムを提案した。

被爆地訪問、初の呼び掛け

国連総会決議、中国反対 日本は賛成

【ニューヨーク共同】核兵器禁止の採決で、中国とロシア、北朝鮮の3カ国が反対し、昨年は賛成に回った核保有国の米、英、法、露、中、印の6カ国が賛成した。核兵器禁止は、核兵器の非人道性を強調する内容で、禁止条約制定につながることを警戒した。佐野利明軍使は記者団に「核兵器国と協議してきたが、意見の収れんに至らなかった」と説明した。

沖縄問題で研究機関設置へ

【白民、理事長に島尻担当相】白民党が、沖縄に関する研究機関を今月下旬にも設立することが、白野高市、移設をめぐり対立する政府と県との溝を埋めたい考え。米夏参院選で改選を迎える地元選出の島尻氏を支援する意思もありそうだ。設立に合わせ、那覇市内で外交・安保政策に関する講演会を開催し、副理事長に就く。政務調査会調査役の田



